

## 食は郊外にあり

札幌の街は近頃、都心部より外縁部が元気だ。つい先日、友人に連れられて護国神社裏手の小料理屋に寄ったのだが、店の造作は小粋だし料理もしっかり板前さんが作っている。酒は全国の地酒の中から女性店主が選んだとかで、すっかり腰を据えてしまった。ここ数十年はご無沙汰していたが、この辺りの昔の事は良く知っていた。かつてはとうていこんなシャレた店が出るような場所ではなかったのだ。

手稲山麓に近く、これといった特徴もない住宅地の中の蕎麦店は、私の家から近いせいもあって、時折出かける。味は一級だが値段も都心以上である。和風の凝った店内も気に入っている。「実は目立たぬ郊外にこんな店があるんだ」と真駒内に住む知人に話したところ、知人はとうに覚えていて「何度か車で行った事がある」という。自分だけが知っている名店のつもりだったのにと、少々くやしかった。

都心を離れてもけっこう旨い物が食えるようになったのは、何年くらい以前からだろうか。例えばこんな記憶がある。

若い頃PR誌の編集をしていた時期がある。行きつけの印刷所の工場が新興の工場地域に移り、そこに出張校正に行った時のことだ。ようやく近所に食堂が開店したとかで、そこから天井の出前をとった。その丼に驚いた。立蕎麦屋の天婦羅みたいなものに醤油を水で薄めた汁をぶっかけたような代物。自宅で作ったってこんなに不出来ではない。とうてい料金のいただけるようなものではなかったのだ。それでも、近くに食堂がここの軒だけであれば、工員さん達は利用せざるを得ない。でも私はその後毎月の出張校正は弁当持参にすることにした。二十数年前のことである。

今も工場はそこにある。近所にファミリーレストランもできている。大型焼肉店もある。あの時の食堂はその後どうなったものか。

車の普及で地域距離は短くなった。今札幌では「食は郊外にあり」という印象だ。